

美濃加茂市における「持続可能な都市(まち)づくり」の考え方(案)

※今後、9月に実施する市民意向調査(満18歳以上3000人対象)結果等を踏まえて検討

現状

- ①依然として人口増加基調にある都市
- ・2025年頃まで人口増加で、以降は減少に転じる
 - ・地域別で見ると、特に蜂屋地区、加茂野地区で人口が増加

- ②市街地外縁部で拡大する居住環境
- ・中部台など中部で住宅団地が形成(郊外の区画整理区域が中心)
 - ・用途地域外における加茂野地区でも戸建住宅の開発が進み、結果として人口増加の受け皿に
 - ・買物は周辺地域の大型商業施設に依存

- ③空洞化が進む中心市街地
- ・用途地域外や幹線道路沿道を中心に大規模商業施設が立地
 - ・美濃太田駅周辺に商店街はあるものの老朽化、空店舗化が進行

- ④移動手段として十分機能していないバス交通
- ・主たる鉄道軸は東西方向(JR高山本線、太多線、長良川鉄道)
 - ・バス交通は東鉄バス八百津線と「あい愛バス」がある。「あい愛バス」は利用が多い路線でも1便当たり5人程度

- ⑤比較的高い地域ポテンシャル
- ・東海環状自動車道に近接した交通利便性や可茂地域広域行政圏の要衝に位置する立地特性により、依然として企業の高い進出意向がある
 - ・多様な資源(中山道(宿場町)に代表される歴史・文化、自然環境など)

本市の持続性を脅かす将来シナリオと課題

- ・今後、中部台や加茂野地区などでますます高齢者の増加が進展(買物難民の増加など)
- ・加茂野地区のように用途地域外においてスプロール的に住宅地がますます拡大
- ・人口が郊外に流出してまちなかの活力が減退
- ・人口減により中山間部の集落のコミュニティの維持が困難に
- ・…といったシナリオをどう回避すべきか

- ・美濃太田駅周辺の中心市街地の衰退が加速(空店舗・空家が増加等のスポンジ化現象の進展)
- ※スポンジ化・・・都市の内部で空家や空地がランダムに多数発生し、多数の小さな穴を持つスポンジのように都市の密度が低下すること。
- ・サブ拠点や生活拠点における生活利便施設の撤退
- ・幹線道路沿道の無秩序な土地利用が加速
- ・…といったシナリオをどう回避すべきか

- ・低調なバスの利用状況が継続
- ・低調なバス利用状況に伴ってバス交通の減便や路線縮小によりバス交通の利便性が低下
- ・…といったシナリオをどう回避すべきか

- ・主力産業(製造業)が撤退(本市の稼ぐ力が低下)
- ・観光客、交流人口の衰退
- ・本市の知名度の低下
- ・(結果として)人口減少も加速化
- ・…といったシナリオをどう回避すべきか

①人口動向を考慮した居住環境を整えていく必要がある

②中心市街地の活性化や拠点ごとの機能強化・充実を図っていく必要がある

③バス交通ネットワークを維持・改善していく必要がある

④都市の持続性に資する産業活力を確保する必要がある

本市の持続性を脅かす課題に対応するために、以下に示す目標や基本方針に即して都市(まち)づくりに取り組むことが必要

- ➡ 見直し中の総合計画との調整が今後想定されるため**仮検討案**としている。
- ➡ 構成要素となりうるキーワードとして7つ例示している。

まちづくりの目標

～(仮)圏域中心都市に相応しい都市機能を備えた、利便性が高く、暮らしやすい、魅力的な都市づくり～

ファミリー層や女性に選ばれるまち

生活利便施設(商業や医療・福祉など)が整った便利なまち

まちなかに賑わいがあふれるまち

誰もが健康に暮らすことができるまち

歩いて暮らすことができるまち

働く場が確保されているまち

歴史・文化、自然と調和したまち

基本方針

- ①子育て層など若い世代が暮らしやすいまちづくり
- ・若者やファミリー層、女性にとって魅力的で、暮らしやすい、利便性が高く子育てしやすいまちをつくる

取組の方向性(例)

- ・子育て層の居住の促進・支援
- ・子育て環境の向上(医療施設、教育施設、子育て支援施設等)
- ・女性にとって魅力的な機能の導入(学びの場、交流の場等)など

- ②拠点ごとの特性に応じた機能(都市・生活利便)が整ったまちづくり
- ・美濃太田駅周辺の都市拠点、加茂野駅周辺のサブ拠点など拠点ごとの特性に応じた都市機能や生活利便機能が整った、暮らしやすいまちをつくる

取組の方向性(例)

- ・鉄道駅周辺の市街地の機能更新
- ・鉄道駅周辺の徒歩圏における生活利便機能の維持・確保
- ・空き店舗活用や民間事業(再開発等)の誘導
- ・公共施設の鉄道駅周辺への集約化 など

- ③公共交通の利便性を享受できるまちづくり
- ・拠点へのアクセス性の高いエリアへの居住誘導を図りつつ、主要な施設(医療・福祉、商業、公共公益等)に容易にアクセスできる、移動しやすいバス交通ネットワークが整ったまちをつくる

取組の方向性(例)

- ・公共交通利用の促進を目的とした意識啓発
- ・バス路線沿線への居住誘導(例:アクセシビリティ20分圏内への居住誘導)
- ・デマンドタクシーの導入
- ・自動運転技術活用に向けた検討 など

- ④都市づくりの方針
- ・スプロール対策など用途地域外の土地利用のあり方検討、雇用の場の確保や都市の稼ぐ力を確保するための産業団地の拡張、観光・交流振興などについては都市計画MPにおける都市づくりの方針にて対応を予定

主として立地適正化計画のなかで検討

主として都市計画MPのなかで検討